

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	872100409		
法人名	有限会社 ありが園		
事業所名	グループホーム ありが園		
所在地	ひたちなか市阿字ヶ浦町187-45 (電話) 029-264-2006		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918	茨城県総合福祉会館内	
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年8月6日

【情報提供票より】(平成20年2月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 8人, 非常勤 11人,	常勤換算 8.6人

### (2) 建物概要

建物構造	A棟木造	B棟鉄筋造り
	A棟1階建ての1階部分、 B棟2階建ての1. 2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000~48,500 円	その他の経費(月額)	52,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年2月12日現在)

利用者人数	17 名	男性 7 名	女性 10 名
要介護1	2	要介護2	1
要介護3	8	要介護4	3
要介護5	2	要支援2	1
年齢	平均 80.4 歳	最低 67 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	勝田病院、恵愛小林クリニック、川崎歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の人々との交流を積極的に受け入れ、小・中・高校生の体験学習により、三世代の自然な交流が促されている。  
特に利用者が作ったストラップを神社でお祓いを受け、交通安全のお守りとして小学校1年生の入学式にプレゼントすることが恒例となっており、利用者にとって励みとなっている。  
認知症サポーター養成講座に参加し、認知症についての理解に努めるとともに、温かく見守り支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 口腔ケアを食事の都度実施するなど課題の改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価や外部評価の目的・意義について、職員に周知を図るまでには至っていないので、全職員が自分の気づきを加えて取り組む体制づくりが望まれる。 利用者にとっての権利や義務など具体的内容の記載を検討し、契約書に明示することが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、会議議事録を作成するとともに、会議内容を職員に周知を図り、課題の改善に向けた取り組みへ努力をしている。 運営推進会議が今後自己評価と外部評価の改善経過のモニター役であることを期待する。 職員は月に何回か市を訪問して情報交換を行うとともに、認知症サポーター養成講座に参加している。 福祉ボランティア・健康体操ボランティアによる運動指導を受け入れる等、サービスの質の向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の健康状態や暮らしぶりは、ホーム便りや面会時に報告している。 金銭管理は、金銭出納帳を備えるとともに領収書も保管し、家族等には定期的に報告している。 玄関・ホールに意見を受け入れる掲示や意見箱を設置している。 家族等が気軽に意見・苦情等を出しやすい取り組みを行い、それらを運営に反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小・中・高校生の介護体験学習の受け入れ、小学校の給食会・音楽会への招待、演奏会や手話ボランティアの来所、地域の祭りへの参加など積極的に地域の人々と交流している。
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「その人の意志及び人格を尊重し、常にその人の立場に立って支援します」を理念に掲げている。	○	地域密着型サービスの役割を考えながら、その事業所としての理念をつくりあげよう今後見直しが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の掲げる理念を会議やミーティング等で話し合うとともに、各自が手帳に記録・所持するなど、職員一人ひとりが理念を共有して、日々実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小・中・高校生の介護体験学習の受け入れ、小学校の給食会・音楽会への招待、演奏会や手話ボランティアの来所、地域の祭りへの参加など、積極的に地域の人々と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の目的・意義について、職員に周知を図るまでには至っていない。 口腔ケアを食事の都度実施するなど課題の改善に取り組んでいる。	○	外部評価の結果とともに自分の気づきを加えて、自己評価の意義や目的を全職員で取り組む体制づくりが望まれる。 利用者にとっての権利・義務など具体的な内容の記載を検討し、契約書に明示することが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、会議議事録を作成するとともに会議内容を職員に周知を図り、課題の改善に向けた取り組みへ努力をしている。	○	運営推進会議が今後自己評価と外部評価の改善経過のモニター役であることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は月に何回か市を訪問して情報交換を行うとともに、認知症サポーター養成講座へ参加している。 福祉ボランティア・健康体操ボランティアによる運動指導を受け入れる等、サービスの質の向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりはホーム便りや面会時に報告している。 金銭管理は金銭出納を備えるとともに、領収書も保管し、家族等には定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関・ホールに意見を受け入れる掲示や意見箱を設置している。 家族等が気軽に意見・苦情等を出し易い環境への取り組みを行い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は職員の離職をできるだけ抑え利用者のダメージを防ぐよう、職員が両棟の行き来をして顔馴染みになるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員に独自の内部研修を年間2・3回行い、育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、地域の同業者と交流する機会を持つなど、勉強会や活動を通じてサービスの質の向上を目指している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にデイサービスや事業所の見学・他の利用者との交流を経て、納得した上で利用を開始している。 事業所独自の「入所相談記録簿」を設けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、昔からの行事・慣わし等を語り合い、先輩としてのアドバイスを受けるなど、支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者の思いや意向を把握するための声かけを行い、利用者が希望する生活が送れるよう取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を第一に考え、関係者と職員間で話し合い、介護計画を作成しているが、家族の認印やサイン漏れが散見される。また、計画書が鉛筆書きになっている。	○	計画書は介護保険法に基づき、保存期間等を考慮しボールペンで記載することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新時に介護計画を見直し、状態の変化があった時は現状に即した新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの受け入れや退院への支援等、その時々々の状況や要望に合わせて柔軟な対応をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医を決定している。 月2回定期的及び病状に応じた受診など、適切な医療が受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意見を尊重しながら医師と話し合い、職員とともに方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。 記録等の個人情報の取り扱いについても、個人情報保護法の理解の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が楽しんで食事ができるよう、献立に配慮したメニューを作成している。 食事支援について利用者の目標に合ったケアまでには至っていない。	○	重度化した利用者について、食事の摂取方法や取り組みについて工夫することが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活歴や生活習慣を活かした入浴支援を行っている。 基本的に週2回の入浴であるが家族の了解を得て、シャワー浴・足浴・陰洗等臨機応変に支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ・片づけ、タオル・シーツを利用した清拭用ナフキン作り、利用者手づくりのストラップを神社でお祓いを受け、交通安全のお守りとして、小学校の入学式に1年生全員にプレゼントする等、張り合いや喜びのある日々を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分・希望に応じて、散歩や日光浴等の支援している。 ドライブ・買い物等も実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。 日中は玄関の戸を開けておき、出入りが自由にできるようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により、年2回防災訓練を実施するとともに、非常時の対応マニュアルを作成している。 日ごろより地域の人々の協力を得ようとしているが、夜間を想定した訓練と避難場所・経路の確認・食料品を備蓄するまでには至っていない。	○	地震や水害等の災害時を想定した訓練を地域の人々の協力を得て行ったり、食料品・飲料水・簡易トイレ等の備蓄、避難場所・経路を確認しておくことが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事量や水分量を記録し、1日の摂取量を把握している。 利用者の状態に応じた量や刻み食・とろみ食などの調理方法を取り入れている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るくカーテン等で適度に光を調節している。 お気に入りののれんを掛け、観葉植物や季節の花を活けるなど居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、本人や家族と相談しながら使い慣れた鏡台・テレビ・仏壇・寝具類・趣味の品などを活かして、安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。